



「第10回 生活と意識についての国際比較調査」 特別調査「働き方と意識についての調査」について

(調査企画) 京都大学 大学院 教育学研究科 教授 岩井八郎

(調査協力) 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学 JGSS 研究センター

(調査実施) 一般社団法人 中央調査社

調査の目的

この調査は、学術調査として日本学術振興会の科学研究費の助成を受けて行なわれております。営利目的の調査ではありません。調査結果は、日本や海外のさまざまな教育・研究機関や行政機関において活用され、日本人の意識や行動の特徴や、現代社会の問題が分析されます。

調査の時期

調査は2月中旬から4月中旬までの2ヶ月間に全国いっせに行なわれます。中央調査社の十分に経験を積んだプロの調査員が、皆様のご都合をお聞きしてから、調査を実施します。調査員は調査員証を携帯しております。



ご協力をお願いする回答者の皆様

日本に在住する満25～49歳の2,100人の方々が対象です。法律にもとづいて、お名前やご住所などをこの調査以外の目的で使用しないことを誓約し、全国の自治体の厳正な審査を受け、住民基本台帳を閲覧させていただきました。地域や性別、年齢がかたよらないように、何人おきというように、日本全国から無作為に選ばせていただきました。

お問い合わせ先

○調査の実施に関するご質問やご都合が悪い場合のご連絡

一般社団法人 中央調査社

〒104-0061 東京都中央区銀座6-16-12

TEL: 0120-48-5351 (フリーダイヤル)

【月～金曜日 9:00～17:00】

E-mail: office@crs.or.jp

○調査確認や趣旨・内容についてのご質問

京都大学 大学院 教育学研究科 総務掛

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL: 075-753-3003

【月～金曜日 10:00～17:00】

E-mail: iwai.hachiro.2r@kyoto-u.ac.jp

これまでにお寄せいただいたご質問は裏面に記載しております。参考までにご覧ください。

[Q&A] よくあるご質問と回答

◇ どうして私が選ばれたの？

正確な統計を得るために、地域や性別、年齢がかたよらないように日本全国から 140 箇所を選び、それぞれの地点で約 15 人の方々（合計で 2,100 人）を選ばせていただきました。法律にもとづいて、お名前やご住所などをこの調査以外の目的で使用しないことを誓約し、全国の自治体の厳正な審査を受けて、住民基本台帳を閲覧させていただきました。ご協力をお願いする回答者の皆様は、台帳から何人おきというように、まったく無作為に選ばれています。

◇ 調査員はいつ来るの？

2 月中旬から 4 月中旬までの間に、直接お宅までおうかがいして、あなた様のご都合をお聞きしてから、アンケート調査をさせていただきます。

◇ どんな調査方法？

まず、調査員が皆様のご都合をお聞きします。調査にご協力いただける場合には、いくつかの質問を口頭でたずねます。その後で、調査員が質問用紙をお渡しします。お時間がある時に回答をご記入ください。後日、調査員が受け取りにまいりますので、こちらで用意した封筒に入れて、お渡ししてください。

◇ どんな質問？

お仕事、家族関係、友人関係、健康状態、政治についての考え方など、生活全般についてうかがいます。ほとんどの質問は「はい」「いいえ」などの選択肢で回答いただきます。

◇ 調査の目的は？

この調査は、学術調査として、日本学術振興会からの助成を受けて行なわれております。営利目的の調査ではありません。日常的生活や考え方をアンケートの形でたずね、日本人の考え方、働き方や行動の基礎的なデータ（資料）を集めます。この調査の関連調査である「生活と意識についての国際比較調査（日本版総合的社会調査：略称 JGSS）」は、2 年に 1 回、継続して行なわれ、10 回の実績を重ねてきました。その調査結果は日本や海外の多くの教育・研究機関や行政において活用されており、今回行う特別調査の結果も同様に広く公表してまいります。

◇ 留守が多いのですが…

調査員が何らかの形（メモを残すなど）で連絡をとりますが、中央調査社までご連絡（フリーダイヤル:0120-48-5351）いただければ幸いです。

◇ 答えたくない質問は？

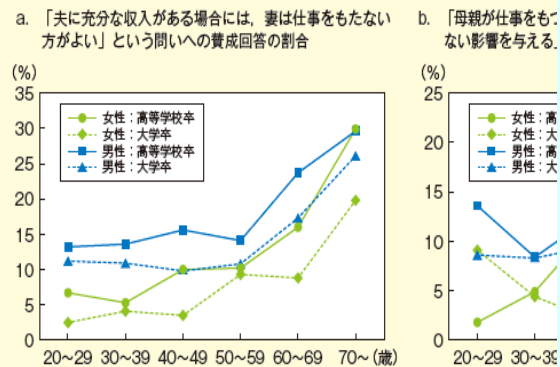
どの質問も重要で、できれば、すべてにお答えいただきたいのですが、回答は決して強要するものではありません。どうしても答えたくない質問は飛ばして次の質問に移って下さい。口頭での面接の場合、その質問には「答えたくない」とおっしゃってください。

◇ 調査結果はどこで見ることができるの？

調査の約1年半後に、回答分布をまとめた基礎集計表が公表されます。JGSS プロジェクトから得られたこれまでの調査結果は、『日本人の姿』（有斐閣）、『日本人の意識と行動』（東京大学出版会）、『データで見る東アジアの家族観』（ナカニシヤ出版）等の刊行物として公表しています。過去の調査概要、研究報告、基礎集計、質問内容などは、今回の調査の協力機関である大阪商業大学のホームページ (<http://jgss.daishodai.ac.jp/>) に掲載しています。調査の結果は、さまざまな新聞やテレビでも取り上げられています。行政機関の白書でも参照されています。



I-特-25図 女性の就業に関する男女の意識 (男女別, 平成22年)



(備考) 1. 「日本版General Social Survey (JGSS)」を基に内閣府男女共同参画局が集計。[(文部科学大臣認定日本版総合的社会調査共同研究拠点)が、東京大学社会科学プロジェクトである。
2. 「賛成」、「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば反対」、「反対」のうち、「

今回の調査の案内掲載 (<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/aboutus/>)

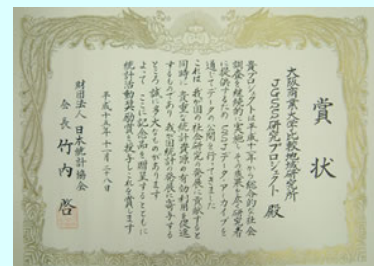
『平成26年版 男女共同参画白書』(内閣府)

◇ 私のプライバシー保護は？

質問される皆様にとっては、どんなことでも大切なプライバシーです。調査を実施する一般社団法人中央調査社は、適正なプライバシー保護を行っている機関の証となる「プライバシーマーク」を認定されています。調査員は、プライバシー情報の管理を徹底いたしますので、誰にアンケートが行われたか、第三者に知られることは決してありません。また、調査の企画から報告書の作成にいたる過程では、「専門社会調査士」(一般社団法人社会調査協会の認定)が指導にあたります。



回答いただいた内容はすべて統計的に処理されるので、調査結果から回答者個人を特定することはできません。個人情報是一定期間後、破棄します。なお、JGSS プロジェクトは、皆様のご協力に支えられながら、堅実な調査研究活動を続けることができます。2003年11月28日には、(財)日本統計協会から「統計活動奨励賞」を受賞しています。



これまでの調査結果の一部

日本人はよく運動するようになったの？

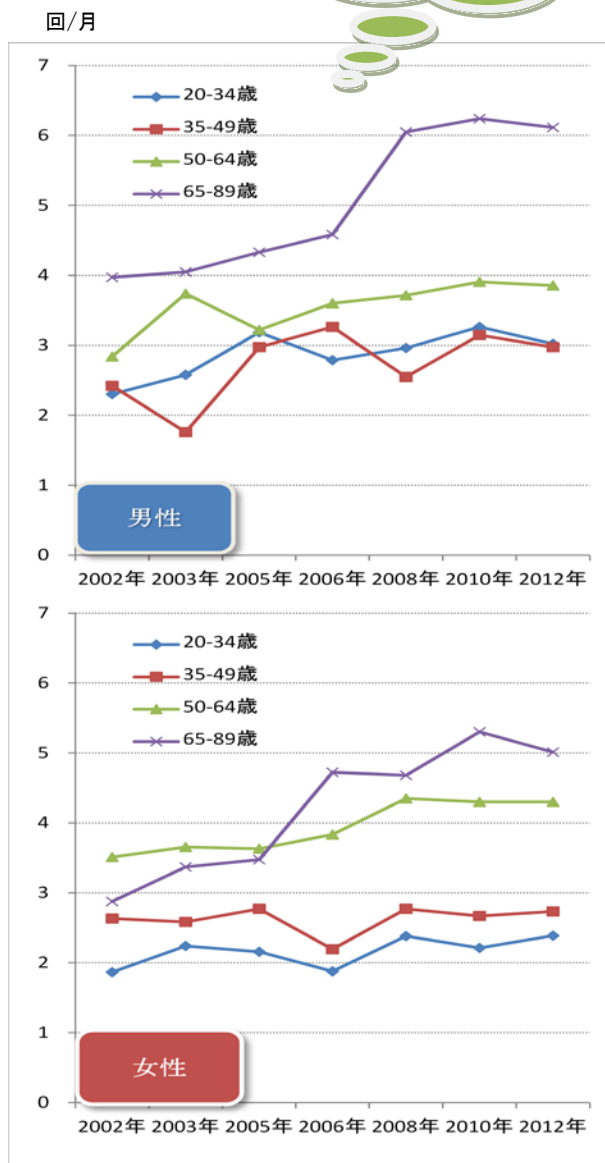


図1 性・年齢別の月あたり運動頻度

日本人のレジャーはどのように変化しているの？

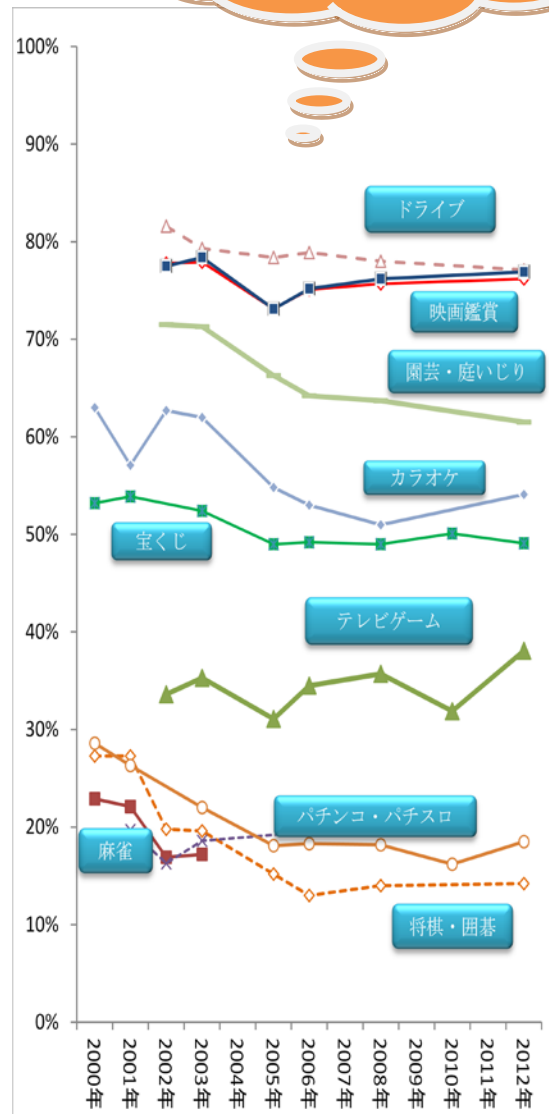


図2 レジャー経験の変化

皆様のご協力に支えられながら、社会に役立つ調査・研究活動を継続していきたく存じます。ご協力のほど、重ねてお願い申し上げます。

調査にご協力いただけない場合は、おうかがいした調査員にその旨をお伝え下さい。
 または、中央調査社 (TEL: 0120-48-5351 / office@crs.or.jp) までご一報いただければ幸いです。